



日本海洋アカデミー

2024年度 海洋プログラムのご案内(概要書)

一般社団法人 日本海洋アカデミー
運営受託 株式会社リビエラリゾート

supported by  **海と日本**
PROJECT



組織・運営体制について



【組 織】 代表理事／鈴木 茂晴氏 (大和証券グループ本社名誉顧問・日本証券業協会前会長)

理 事／木村 太郎氏 (フリージャーナリスト)

仲道 郁代氏 (ピアニスト)

加藤 佳穂氏 (認定NPO法人ルーム・トゥ・リード・ジャパン 事務局長)



【運 営】 株式会社リビエラリゾート 海洋普及部

事業所：リビエラシーボニアマリーナ



【開催地】 江の島ヨットハーバー 神奈川県藤沢市江の島1-12-2

リビエラシーボニアマリーナ 神奈川県三浦市三崎町小網代1286



学校教育現場で取り残されがちな海洋について、ヨットを通じて体験から学びます。船の操船技術やSDGsの学びの実体験だけではなく、時には脅威にもなる自然を含めて海の雄大さや楽しさを味わい、グローバルで多様性ある視点を養い、豊かな人間性とリーダーシップを育てます。

持続可能な 海洋文化の育成

美しい海に囲まれた日本で、環境にやさしいヨットを通じて、持続可能な海洋文化に親しみます。気候変動や海洋保護への意識を高め、海との調和した関わり方を学びます。

連帯感と グローバルな視野 の醸成

ヨットに乗る非日常体験から、仲間との協調性やコミュニケーション力を培います。海洋教育を通じて、海でつながる世界を意識し、国際感覚やグローバルな視野を広げます。

180度異なる視点 の育成

海に360度囲まれ「海から陸を見る」経験から、自己を客観視すると共に多様性への理解を深め柔軟性と創造性を養います。問題解決能力を高め、持続可能な未来に向けたリーダーシップ力を育てます。

海と学び
地球を守ろう

友達と
世界を
広げよう

新しい視点で
未来を考えよう

事業目的



現状と課題

海に囲まれた日本であるにも関わらず、「**海離れ**」が深刻な問題になっています。
日本海洋アカデミーは、この問題を深刻に受け止め **海から陸を眺めることで得られる新しい視点**を重要視しています。この視点は、**グローバルな社会において青少年が世界を広く理解するための基盤** となり得ると確信しています。

目的

最終的なゴールは、**青少年が「海を正しく理解し、尊重し保護し、楽しむ文化」を育み次の世代につなぐ** ことです。海洋教育を通じて、**グローバルな視野** を持たせ、持続可能な未来を築くことを目指しています。また、**海の重要性と美しさを体験しながら、180度異なる視点で見ることで問題解決能力** を高めることが可能となります。

普及

日本海洋アカデミーは、**欧米のように海が生活の一部である文化を日本でも根付かせること**を目指しています。これを実現するために、沿岸地域だけでなく、**海なし県や内陸部の学校や団体**に対しても海と身近に触れ合う新しい教育の形を提案しています。当アカデミーは、体験学習の効果を全国に広げること为目标としており、一般応募による多様な海洋プログラムの提供も行っています。

過去活動実績



(単位：人)

1200

18年間で延べ8,300名を超える参加者

1000

800

600

400

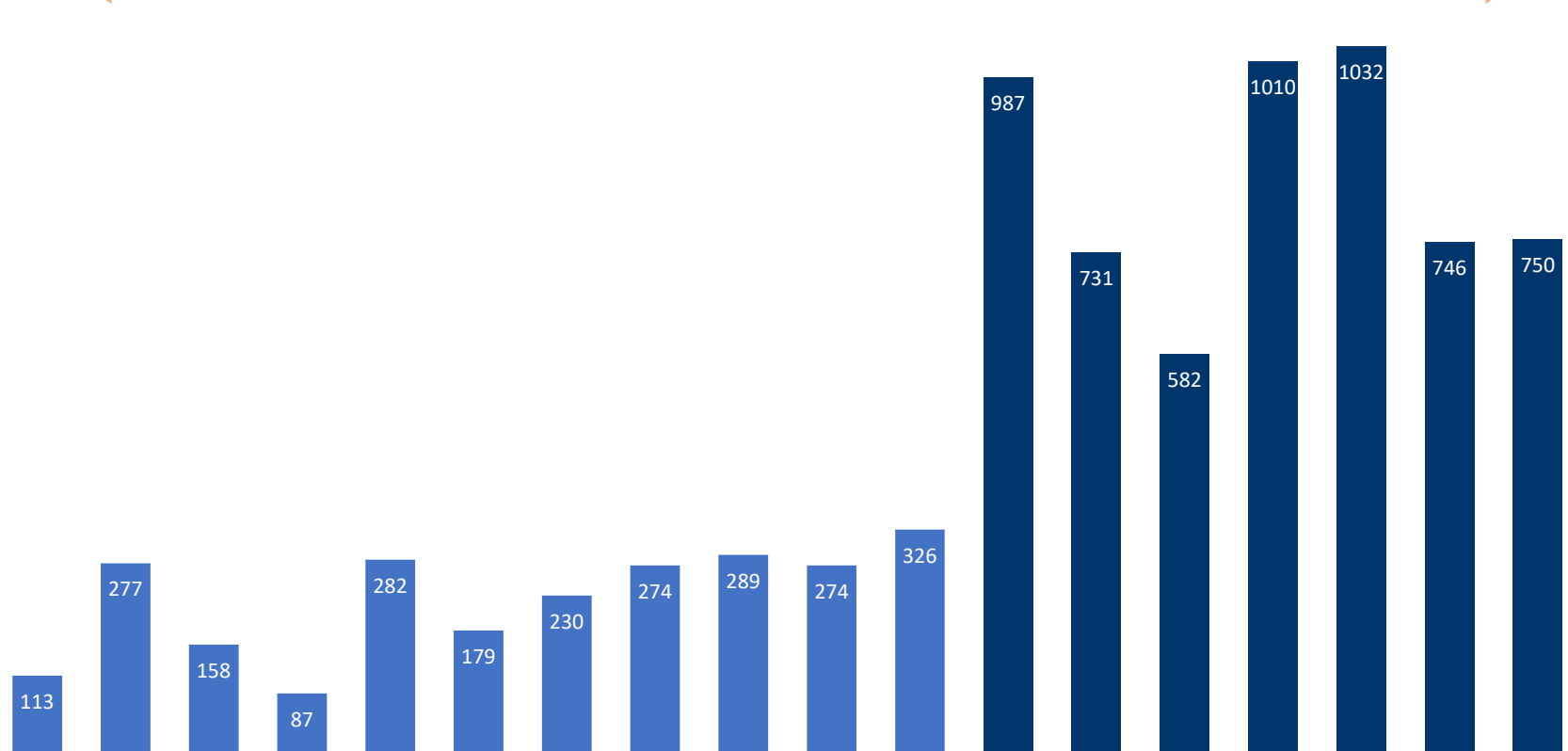
200

0

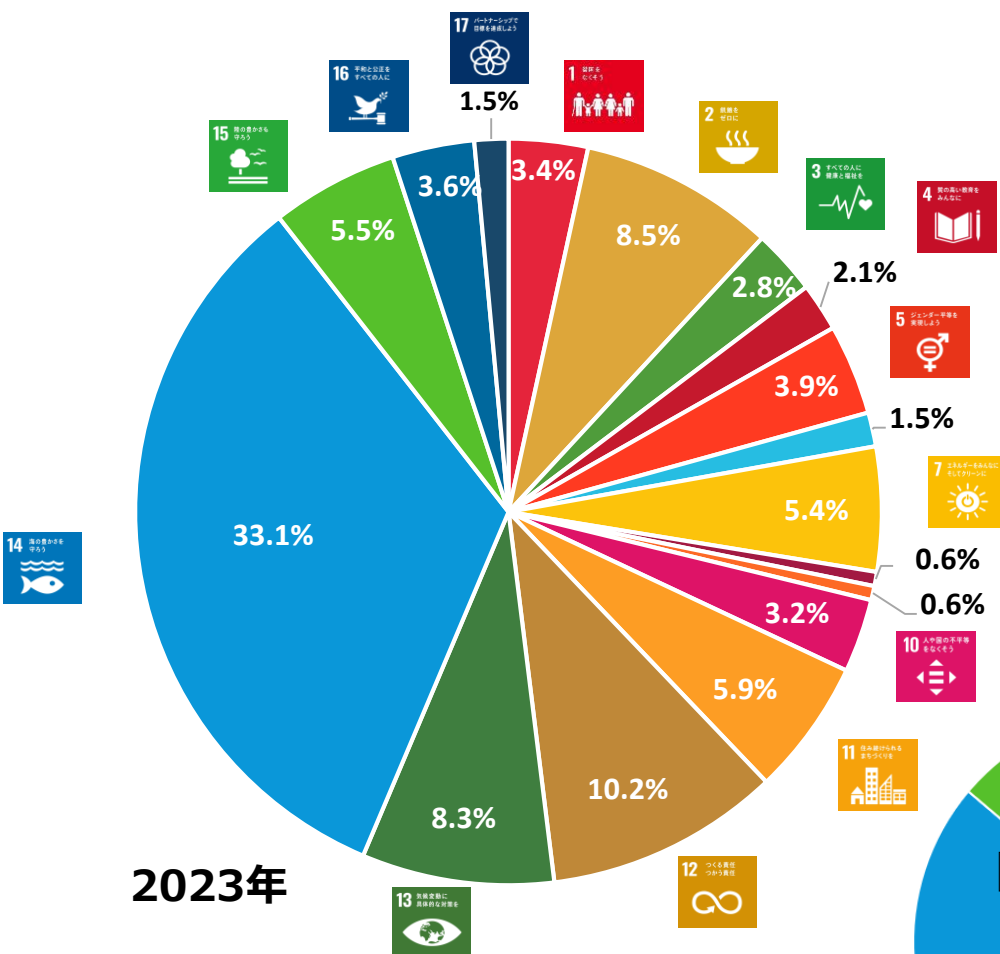
2006年

2017年

2023年



2017年より
「一般社団法人日本海洋アカデミー」を設立

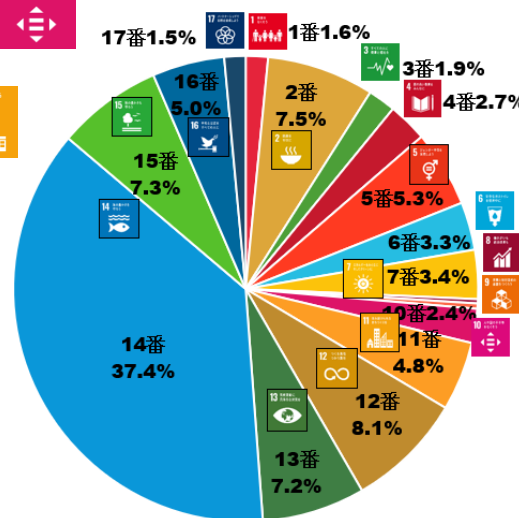


実際に洋上に出たことはなく実体験として海を感じてはいないが、海への関心は非常に高い

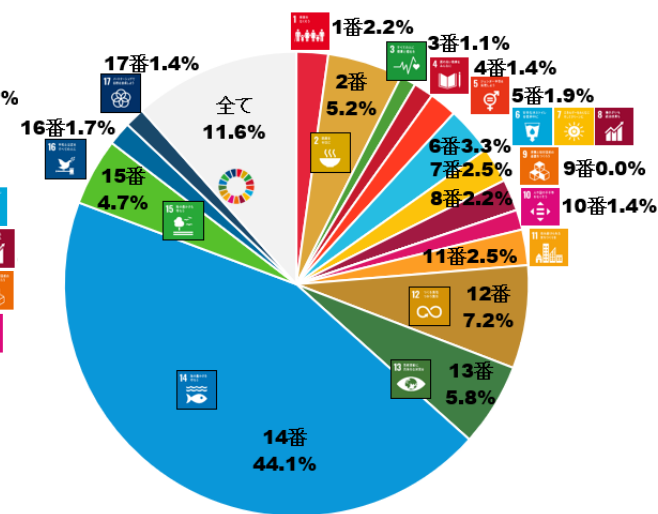
【考察】

- SDGs教育が進み、各ゴールへの関心が高まってきている
- 依然として海に関する内容（SDGs目標14）はダントツに高い関心を示されている。
- 環境分野（SDGs目標6.13.14.15）が全体の50%
- 22歳以下で抽出したデータでは、SDGs目標14の割合は、さらに顕著に多い

2022年



2021年



2024年度 事業活動方針

■学校教育現場で取り残されがちな海洋について、ヨットを通じて体験から学びます。

■SDGs14番「海の豊かさを守ろう」をわかりやすく伝えていきます。



■今後大切となる「SDGsの統合的思考」を実践する海洋教育プログラムを提供し、持続可能なプログラムとして広く浸透させていきます。



■小中学生に対し、海洋体験プログラムを実施。

■小中学生指導者に対し、サステナビリティとしての海洋体験プログラムを実施。

■福祉プログラムとしての海洋体験プログラムを実施します。

活動のコンセプト①

海に触れる

- 海でのプログラムを通じて、海に興味を持ち、海に親しむ。
- 日本の美しい海を保全だけでなく再生し、後世に引き継ぐ大切さを学ぶ。



ビーチクリーン活動



海洋生物セミナー



活動のコンセプト②

協調性に触れる

- ヨットやカヤックの体験を通じ、仲間との連帯感や協調性を育む。
- コミュニケーションやチームワークを通じて、協力して目標を達成する力を養います。



シーカヤック操船体験



小網代の森散策

体験できない場合がございます



活動のコンセプト③

技術に触れる

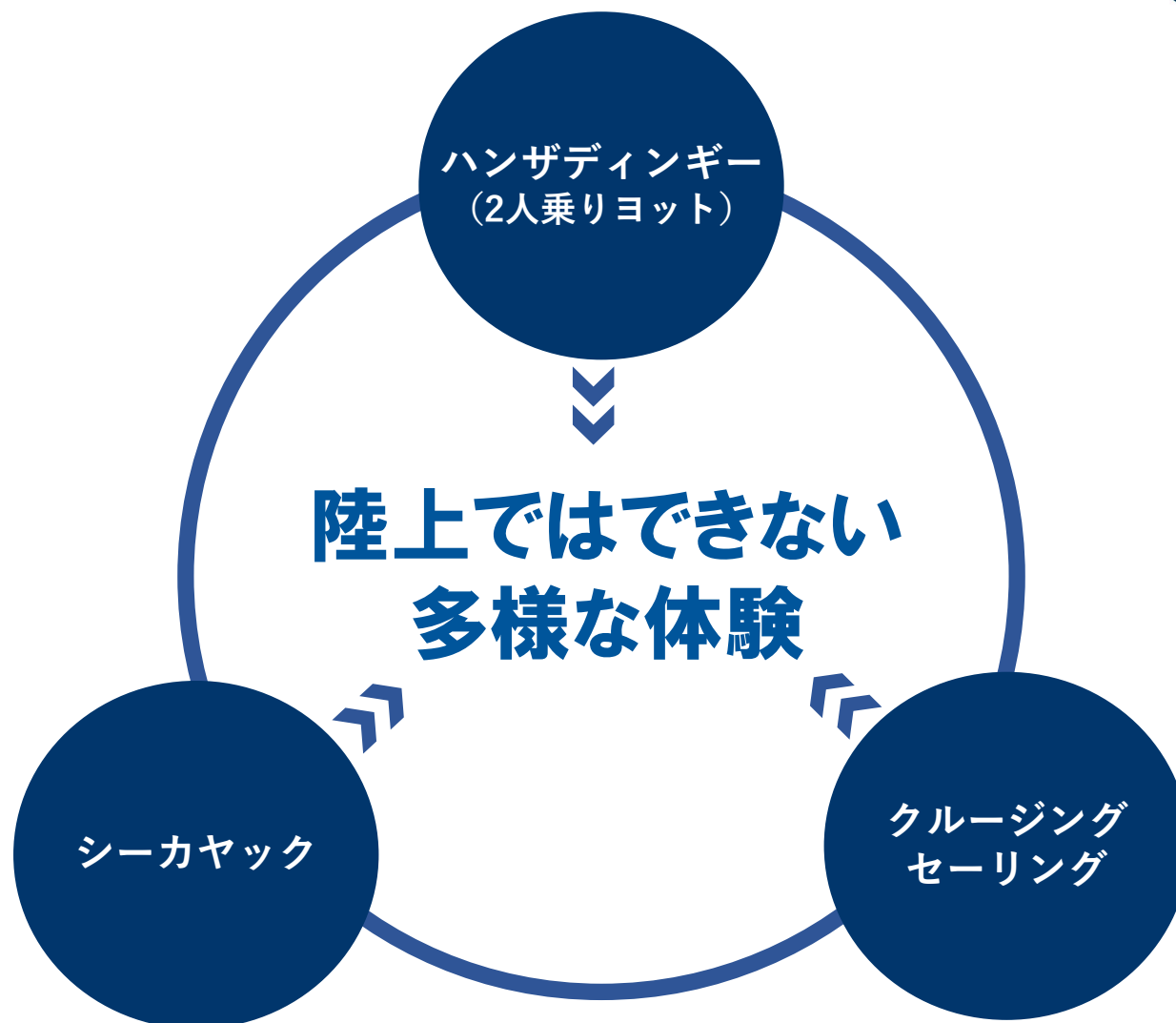
- 物理や科学の高度な学問を、帆に風を受けて走るセーリングの原理を知り体験から学ぶ。
- 安全な海での遊び方や航海の基本を学び、命を守る知識を習得する。



アクセスディンギー操船体験 ボートクルーズ体験



主なコンテンツ・体験内容



開催の様子①

ハンザディンギー操船体験



開催の様子②

カヤック操船体験



開催の様子③

クルージング・ロープワーク体験



開催場所



リビエラシーボニアマリーナ（神奈川県三浦市）

<https://www.riviera.co.jp/marina/seabornia/access/index.html>



RIVIERA ZUSHI MARINA リビエラ逗子マリーナ（神奈川県逗子市）

<https://www.riviera.co.jp/zushi/access/index.html>



江の島ヨットハーバー（神奈川県藤沢市）

<https://www.riviera.co.jp/marina/enoshima/access/index.html>



スケジュール例



8 : 00	現地施設を出発
--------	---------

10 : 00	開催マリーナ到着・開校式
---------	--------------

10 : 30～12 : 30	海洋プログラム（プログラム内容は応相談）
-----------------	----------------------

12 : 30～13 : 30	昼食
-----------------	----

14 : 00	開催マリーナ出発
---------	----------

16 : 00	現地施設到着
---------	--------

参加者の声



【先生】

- ・なかなかできない貴重な海のプログラムの体験を、リビエラのスタッフの力を借りて安全に行えた。
- ・「SDGsの知識を深め考えを持ち実践に結び付くきっかけづくりをしよう」と子供たちに伝えてきたが、実地見学や体験を通して、今回それが達成できた。
- ・海をきれいにするだけでなく、それぞれに合った環境にすることが大切だと学べた。
- ・変化している海をもとのように豊かな海に戻すために、リビエラが取り組んでいることを見学・体験し、生徒と学ぶことができた。
- ・教室では学ぶことのできない体験ができた。特に、企業におけるSDGs実施を体験し、SDGsの具体への知識を深めた。

【生徒】

- ・海で起きていることをしっかり教えてくれてその改善方法を知れたので、今よりもさらに考えることが大事だとわかった。
- ・海をきれいに保たなければならないことを知り、ビーチクリーンなどにも参加しようと思った。
- ・日本海洋アカデミーの取り組みを日本中の人たちが知れば、SDGsの目標の一部が達成できると思った。まずは、友達や家族に今日学んだことを広めたいと思う。
- ・海の手藻が減っていることや、海ゴミが増えている現状を聞き、海がこんなにも大変な状況になっていることを初めて知って、自分でもできることを探したいと思った。
- ・きれいな海にするために、街でゴミを見かけたら無視せずに拾おうと思う。
- ・ヨットは難しかったけど、カヤックは2人で息を合わせたら、進んで楽しかった。
- ・ヨットは難しかったけど、力を合わせるとできて楽しかった。
- ・ボートでゴミ拾いをした。こんなにプラスチックゴミは多いとは思わなかった。
- ・クルーズをしながら、自然の話が聞けて良かった。
- ・来年も再来年も体験したい
- ・毎授業が海の事だったら、良いと思った。

お問い合わせについて



お問い合わせ先

運営受託 株式会社リビエラリゾート

海洋普及（責任者：小泉）

Tel 046-882-1214

Mail kaiyofukyu@riviera.co.jp

URL <https://www.riviera.co.jp/academy/>

事業所 リビエラシーボニアマリーナ（神奈川県三浦市）



日本海洋アカデミー

